

# 石川県警察本部「少年サポートセンター」との連携による 少年立ち直り支援活動

団体名●池田ゼミナール／代表者名●池田幸應（人間科学部スポーツ学科教授）

## はじめに

社会生活でのICT化がより一層進み、社会環境の変化により地域コミュニティの状況や私たちの生活環境も大きく変化している。この中で少年たちの非行件数は減少傾向ではあるが、その内容はより深刻化しており、警視庁でも「地域の少年は、地域で育てる」という意識をもって地域ぐるみでの取り組みの重要性を指摘している。これまで、石川県警察本部「少年サポートセンター」と本学人間科学部スポーツ学科池田ゼミナール（地域環境を活かした野外教育、スポーツ教育、地域ボランティアの推進）が連携・協働し、2013年度より継続的に非行少年の立ち直り支援活動を行ってきた。なお、2019年度より同大学経済学部中尾ゼミナール学生も参加し、協働活動を行っている。

## 活動内容

本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により、地域社会での様々な活動が中止または規制される状況の下で、可能な範囲での連携活動を実施した。〔10/11(日)サツマイモ収穫＋焼き芋づくり、12/12(土)大根収穫＋おでんづくり、2/12(金)大根収穫〕



少年のジャガイモ収穫活動サポート(7/13)の様子

これらの活動には、小学校4年生から中学校3年生までの少年(児童・生徒)が参加し、学生以外に

もその保護者、少年サポートセンター職員、警察官も協働して支援活動を行った。



少年の体験活動(「大根の収穫」)案内

## 成果、結果の考察

現在の社会状況は、犯罪の低年齢化、凶悪化が一層進み、これから親となる年齢層の学生自身にとっても「犯罪」は決して遠い存在ではない。学生にとって、日常生活の中で非行少年と直接会い、その支援活動に参画することは殆んど無く、この少年サポート活動は、少年やその保護者、サポートセンター関係者にとっての支援だけではなく、学生自身の成長にも繋がっているものと推測される。参画した学生にとって、犯罪に対する抑止意識や子どもたちへの健全育成への関わり意識が向上しており、実際に本活動に参画したゼミナールOBの多くが、現在警察官として地域社会で活躍している。

なお、現在、本ゼミナール学生2名が金沢東少年補導員連絡協議会「少年補導員」として正式に委嘱(2020・2021年度の2年間)を受け活動している。

## 今後の課題、展望

本年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染防止上、活動が中止または規制される状況であったため、この連携を更に深化させ、より多くの視点を有する他大学の学生や高校生等とも協働で取り組むことで、サポートの更に輪を広げたい。